クラインガルテンを活用した交流人口増加の支援（阿南町）

■背景とねらい

阿南町では20棟のクラインガルデンを活用し、利用者や利用者を支援する地域住民組織との交流を通じた交流人口の増加に向けた取組を展開していることから、野菜栽培の指導を通じてこれらの支援に取り組んだ。

■本年度の取組と成果

１　野菜栽培指導

５月３日、６月10日、８月５日に阿南町役場との連携により、クラインガルデン利用者及び利用者を支援する地域住民らを対象とした、座学とほ場巡回による野菜栽培指導会を開催した。

果菜類の仕立て方などは実習を組み合わせることで座学での理解が深まり、技術も向上した。

２　野菜栽培技術の向上に伴う成果

利用者および地域の支援者双方とも野菜栽培技術の向上にあわせてより良い品質の野菜を収穫したいという意欲の高まりが見られた。回数を重ねるごとに、質問の数が増え、その内容もより高度なものとなったことからも明らかである。

20棟の滞在棟の次年度予約状況は満室で、その９割は本年度からの継続利用者である。

クラインガルデンの野菜栽培ほ場の巡回指導

■今後の課題と対応

クラインガルデン利用者が継続的に滞在棟を利用し、これらを支援する地域住民との交流を通じた交流人口の増加、さらには地域に移住する方が現れるよう支援を継続する。

（阿南支所：樫山　岳彦）

「南信州フォレストパーク構想」の支援

■背景とねらい

下伊那西部地区の阿智村・根羽村・平谷村の三村では森をはじめとした豊かな自然を地域のブランド化とすべく、「南信州フォレストパーク構想」を立ち上げた。その一環として、三村の農産物の販売イベント「森の収穫祭」が企画された。地域の青年農業者同士の交流促進および地元農産物のＰＲのため、森の収穫祭の開催を支援した。

■本年度の取組と成果

１　「南信州フォレストパーク構想」の周知

５月 26 日に下伊那西部地区青年農業者交流会を開催し、森の収穫祭に向けて青年農業者同士の関係構築に努めた。また、６月 30 日には阿智高校農業エリア専攻の学生と青年農業者が集まり、地域農業ワークショップとして、森の収穫祭や農産物のＰＲについて意見を出しあった。

２　森の収穫祭開催支援

８月 11､12 日に阿智村で森の収穫祭が開催され、三村の青年農業者 13 名が出品、販売を行った。三村で収穫された農産物のセット販売を行ったが、農産物単体で購入したいとの意見が多く、初日の販売は目標を下回った。２日目は反省を生かし、農産物の単体での販売や詰め放題を行うことで、初日を上回る売れ行きとなった。県外からの来場者も多く、販売促進のため農業者自らが会場内を売り歩くなど、積極的な姿が見られた。

10 月 25 日に開かれた反省会では、参加者から改善案が数多く出され、次年度に向けた前向きな姿勢が見られた。

■今後の課題と対応

初めての試みのため反省点が多く残ったが、農業者同士の交流の場として貴重な機会となった。

来年度は地域農産物のＰＲを意識し、支援を行っていきたい。

（地域第三係：浅見　茉由子）

ガレットで地産地消

■背景とねらい

地産地消活動には農産物直売所等での販売や飲食店等での地域食材のメニュー化などがある。

地域農産物の個人消費を喚起するために、比較的手軽に調理が可能なガレットによる地産地消活動に取り組んだ。

■本年度の取組と成果

１　ガレット教室の開催に向けた準備活動

会議や打ち合わせ等の機会を通じて農村生活マイスターや農村女性ネットワーク、食生活改善推進員や栄養教諭、栄養士等に対し、ガレット教室を通じた地産地消活動を提案し、地域食材の消費拡大という目的を共有するとともに、募集用チラシの作成などの支援を行った。

２　ガレット教室の開催実績

下條村（９月）、天龍村(11 月２回)、泰阜村(12 月)、合庁(12 月)、大鹿村（１月）、飯田市（２月）で開催し、延べ 97 名が参加した。

参加者の多くがガレットに触れるのは初めてであったが、簡単な調理で１年を通して身近な食材が使えることが分かり、食味の評価も高かった。早速、家庭で試してみたいとの声も聞かれた。

■今後の課題と対応

家庭でガレットを定着させるためには材料のそば粉が常時購入可能な体制を整備する必要がある。

ガレットを焼く参加者

（阿南支所：高橋　博久）

地元食材の魅力発信・認知度の向上

■背景とねらい

地産地消を推進するにあたり地元食材の認知度向上は必要不可欠であるが、伝統野菜をはじめとした地元食材の知名度は南信州管内においてもそれほど高くない。そこで南信州の食材の魅力を発信するため、商談会、伝統野菜の産地見学会・展示会等を開催した。

■本年度の取組と成果

１　南信州うまいもの商談会（10 月、２月）

地域振興局で開催しており、令和５年度は 11 回目の開催である。南信州地域の農産物や農産加工品の商談の場であり、農業者も数件出展している。その場での取引成立には至らないものの、今後の取引検討に至った事業者もあった。

２　伝統野菜産地見学会（11 月）

南信州地産地消協議会が主催し、生産者と実需者の交流の場を設定している。本年度のテーマは親田辛味大根であった。飲食店関係者１名、事務局２名、支援センター２名、親田辛味大根関係者１名の出席があった。

３　伝統野菜フェアの開催（11 月）

およりてファーム収穫祭にて、伝統野菜のＰＲを目的として、展示ブースを設置した。来場者は 300 名以上あった。

４　もくよういちの開催（周年）

昨年度から活動を継続しており、生産者と実需者の交流の場として､毎週木曜の開催を支援した。６月、１月に栽培計画検討会議を開催し、情報交換を行った。

■今後の課題と対応

生産者と実需者・消費者をつなげる機会をつくることで独自に活動を続けていける生産者もいた。

引き続き、伝統野菜をはじめとする地元食材を実需者・消費者に提供する場を設定する。

（地域第二係：内田　牧歩）

食品企業の農業参入に向けた基盤整備支援（阿南町）

■背景とねらい

製造販売する加工食品の原材料となるりんごの自社生産を計画している食品企業の農業参入支援を通じて、同社工場のある阿南町で課題となっている遊休農地対策や担い手確保を進めることを目的に活動に取り組んだ。

■本年度の取組と成果

１　連携活動

同社、JA、阿南町、南信州地域振興局（農地整備課、当センター）を構成員としたプロジェクトチームによる 11 回の検討を通じ、農地確保、品種や栽培技術の選定、基盤整備、補助事業の活用に向けたスケジュールと役割分担が明確になった。

２　農業農村支援センターの役割

当センターは主に、12 回のプロジェクトチーム検討会の企画運営や進行管理を担当した。りんご高密植栽培苗木の植付けに向けたプロジェクトの進捗状況を構成機関が共有しながら、それぞれが業務の評価と計画の樹立実践に取り組んだ。

その結果、参入法人の形態、活用する補助事業、ほ場の図面、トレリスの配置などが明らかになった。

プロジェクトチームによる現地ほ場の測量

■今後の課題と対応

この取組は、企業の参入支援を通して遊休農地対策や担い手確保など地域農業の振興につながることから、スケジュールに従って関係機関の連携を図りながら活動する。

（阿南支所：樫山　岳彦）

６次化および契約取引の推進

■背景とねらい

農業者が自主販路の開拓・拡大を進めるうえでは、実需者と相対する商談会は有効であり、例年南信州独自あるいは県主催の商談会が開催されている。昨年度から商談会は対面形式での開催となったため、参加する農業者が対応できるように支援を行った。

■本年度の取組と成果

１　６次産業化プランナー派遣の実施

アイスクリーム事業化希望者に対し８～12 月の毎月１回、６次産業化プランナー派遣を行い、商品の原価計算や販売計画について打ち合わせを実施した。３月末までに経営計画を策定する予定でいる。認定事業者１件について 10 月に国のフォローアップ調査を実施した。

２　取引業者とのマッチング支援

銀座 NAGANO からの依頼で、飯田市内直売所と東京都企業の野菜セットの取引支援を行い、７月のイベントで出品をした。

また、JA みなみ信州と大阪府飲食店とのなしの取引支援を行い、来年度に店舗でのなしスムージーの販売が決定した。

飯田市果樹農家と東京都ホテルとのなしと市田柿の取引を支援し、取引が成立した。また、飯田市果樹農家から、銀座 NAGANO でのショップ販売について取引希望（市田柿）があった。

JA と大阪府飲食店のなしの取引

■今後の課題と対応

販路拡大を希望する農業者には、引き続き商談会や実需者情報の提供を行い、農業者の所得向上につながるように支援をしていきたい。

（地域第三係：中村　武郎）